

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105235		
法人名	(株)アイリーフ		
事業所名	アイリーフ当新田 (1階ユニット)		
所在地	岡山市南区当新田364-5		
自己評価作成日	平成23年3月10日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3370105235&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成23年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流には毎年力を入れております。入居者の方も地域の方と顔なじみとなり、地域の方が遊びに来てくれるようにもなり、ホームの中だけでなく地域の方との交流を通して、入居者の方の新たな人間関係作りができるようになりました。昨年7月からは、共用型デイサービスを開設し、グループホームならではのサービスの提供を行っております。ケアのアピールとして、入居された時から看取りは始まっている事を胸に、日々の暮らしを支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームの最もすぐれているところは、まずチャレンジ精神が旺盛なことである。外部評価で提案されたことに同感したらすぐ挑戦する。関連グループで続けている「改善コンクール」には難題にもめげず利用者も一緒になって果敢に取り組む。グループホーム協会や全国セミナーで「その人らしい看取りの為に」や「お年寄りを主人公とした地域貢献活動」等をテーマに研究発表をする。このような積極的で前向きな姿勢はホームの空気を常に活性化している。その波及効果もあってか、このホームの住人は利用者も負けず劣らずよく喋り合う。昨年度の目標達成計画全ての取り組みが生き生きとした暮らしにつながっている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所内に掲示し、社員研修の内容にも理念に基づいた内容あり、管理者、職員はその理念を共有し、実践するよう常に心掛けている。	理念である「暖かい家庭の雰囲気そのままに」を地でいくような、楽しいホームである。半年毎に「チャレンジシート」を活用したり、個人目標達成を職員同士で評価をし合い、月間MVP賞を出す等、会社の仕掛けも興味深い。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会、秋祭り等町内行事に参加し、小学生や幼稚園児との交流もあり、近所の方に畑の指導をもらったり、散歩時にはいつも声を掛け合っている。	この項目こそ利用者・職員そして地域の人達が一丸となって射止めた地域交流の宝物である。周辺地域に花を咲かせたり、ホームのお年寄りが下校時の安全パトロールを引き受けたり、餅つき大会には数えきれないほどの参加がある等、実績は数えられないほどある。	地域交流の実績が山ほどあってもまだまだ開拓出来る事はある。昨秋「サンタクロース」のテーマでハローズ・公民館等で一定期間利用者の作品を展示したが、毎年継続し、少しずつ手を広げていって欲しい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	掲示板を利用し季節行事の案内をし、地域の方に参加してもらい交流を深め、認知症の理解をしてもらえるよう努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域の方に現状について報告し、意見交換を行っている。改善点あれば、ただちに改善するよう努めている。	家族は5～6人程、町内の役員や地域包括の職員も参加して毎回有意義な話し合いをしている。意見交換も活発で、その議事録を事後家族全員に送っている。ここで出た意見を運営に取り入れた例もある。	運営推進会議では内容のある意見交換が見られ、業務の改善やサービスの向上につないだ例も見られるが、今以上に活用を幅を広げる方法があると思う。出来る事から着手して欲しい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に、相談し、協力を得ている。	何か分からない事があれば市の担当者にもその都度相談しアドバイスや協力をしてもらっている。しかし運営推進会議への参加は今は無く、今後を期待している。	運営推進会議へ地域包括の職員の参加を得るために開催日を平日に変更すると家族の参加が減少傾向にあるので、今後の事については担当者によく話し合う必要があると思う。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてカンファにてスタッフ一同理解し、認識している。入居者の安全確保にてやむを得ず玄関の施錠する事はあるが、長期化しないよう心懸けている。	利用者の安全を第一として、例えば一時的な拘束(玄関施錠やベッド柵2本使用)をやむを得ずすることもあるが、マニュアルに従って三原則を守り、職員間でもよく話し合って適切な対応をするよう心掛けている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて虐待の防止法に関する理解・認識は図れている。声掛け等、虐待とつながらないか常に意識し注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、理解を深めるよう努めている。 必要と思われる利用者の方には、活用できるよう支援に努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は事業所のケアに関する考え方や取組、退去を含む対応可能な範囲や利用料金、リスク、重度化、看取りについて細かく説明し同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお便りや家族会、面会時に相談してもらえるよう雰囲気作りに努めている。無記名のアンケートを実施し、満足度を高めるよう努めている。	職員から個々に送られるお便りや行事等お知らせする「アイリーフ瓦版」、「ご家族満足度アンケート」等でホーム側からの情報はよく提供している。日頃の面会や電話連絡でも丁寧に家族と話し合っている。	色々なチャンスを作り家族とコミュニケーションを図ろうとしているが、意見の引き出し方や、出た意見を運営に反映させる方法等で今以上の工夫・改善が出来るのではないかな。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・日頃より意見、要望や意向が聞けるよう雰囲気作りに努めている。必要に応じては話を聞ける場をもつようにしている。	「職員が意欲的に向上心を常に持ちながら仕事をする為に何が必要か？」を考え続けている会社や代表者であり、職員の意見や提案にもよく耳を傾けている。実際に職員からの声で勤務体制を変更してみたこともある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回のチャレンジ目標を掲げ達成できるよう日々努力している。又、各自2カ月間において個人目標を掲げ達成により近い人にMVP賞を与えモチベーションアップを図っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力にあわせ外部研修の参加ができるよう勤務体制を配慮したり、内部研修もテーマを決め自由参加として実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所、他の事業所との勉強会を二か月に一回行い、情報交換をしたり、訪問研修を行いサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より情報収集に努め本人様の状態の把握に努め、信頼関係が築けるよう、ご本人様の要望等をしっかり傾聴するよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思い、要望等は入所時にしっかりと傾聴するように努め、面会時に信頼関係が築けるよう常に心掛けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族から得た情報や本人様の思いを踏まえて、新しい環境に馴染んでいただけるよう環境づくりに努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様のできる事を把握し、役割を持ちお互いに協働しながら過ごせるよう支援している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りや面会時に報告、相談をし一緒に支えていくように心掛けている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人との関係が切れないよう、面会に同行したり、季節の挨拶のお便りを出す支援を行っている。。	ハローズに買物に行き知り合いに声をかけられしばらく懐かしいおしゃべりをしたり、近くの散歩で馴染みになった人と親しく話をする等、社会とのつながりを大切にしている。ここは習字にも力を入れているが、年賀状や暑中見舞いも出している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないような環境作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も行事に手伝いに来てくださったり、季節の野菜を持ってきてくださったり、野菜作りの協力を得ている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の思いや意向を会話の中から聞き出せるよう努めている。意思確認困難な方は、表情や行動を見て、思いを推測している。又、ご家族様の意向も尊重している。	以前「今、この瞬間の私の思い」をテーマに取り上げ改善コンクールで発表したが、その波は今も消えず、管理者の夢は大きく膨らんでいる。大きなことでなくても良い。本人の心からの願いに耳を傾け、実現させたいという気持ちを大切にしよう。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報、ご本人様との会話の中からの情報を基に今までの暮らしの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる事の発見に努め、継続的に行えるように支援し、一日の過ごし方や健康管理を含めて把握し申し送り、介護記録にて共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の思いも大切に、カンファにて課題分析し、よりよいケアとなるよう努めている。	プラン作成の時だけでなく日頃から本人・家族とよく話し合っており、プラン意向欄もそれぞれの言葉の記載があり、気持ちがよく伝わってくる。毎月のカンファレンスではモニタリングを確実にしており、状況により見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやカンファにて職員の情報の共有に努めている。又、個々の介護サービス計画実施評価を記録に残し必要に応じて介護サービス計画の見直しをしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに柔軟に対応するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	作品を地域のスーパーに展示したり、作品をお土産として配られたり、自信ができ、楽しんで取り組めるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の説明を行い、納得を得ている。ご家族のご希望あれば他病院受診も対応している。	月2回内科外科のかかりつけ医の往診があり、ほとんどの場合対応できる。詳しい受診ノートからその状況が把握できる。他の診療科や家族の希望による受診も関係医療機関と連絡をとりながら対応している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は常に異常の早期発見に努め異常あれば24時間体制で看護師と連絡、相談でき、速やかに受診、往診できる体制を整えている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院時は病院との情報交換を常に行い、早期退院ができるように努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取りとなった場合、事業所としてできる事の説明を行い、病状悪化時にはご家族に相談し情報を共有するよう努めている。	急変の人も含めてこのホームで8人も見送った。それぞれが、残された人へ色々な想いや課題を、さらに深い喜びや充実感も与えてくれた。そして、職員は一人ひとりに成長の為に足掛かりをプレゼントしてもらった。辛い事には違いないが、今後も環境を整えれば取り組みたいと言う。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応など事業所内勉強会を行い、緊急時対応できるよう努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者の方を安全に避難誘導できるよう、地域の方にも参加してもらい年2回訓練を行っている。今後、災害時の対策にも取り組んでいきたい。	出火場所や時間帯の想定を変え火災時の避難訓練を実施している。スプリンクラーの設置や2階の利用者の避難、避難してからの点呼見守り、地震等の災害時の対策等、近いうちに取り組む予定である。	運営推進会議にも繰り返し議題に取り上げ、会議の途中で訓練を実施したり、消防署や隣近所の人参加も加えて防災対策に取り組んでみてはどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重できるよう対応に努め、個々に合わせた声掛けを行っている。	地域の人の要望に応じて、始めても定着しにくいグループホームでのデイサービス受け入れを実現している。個々の人格の尊重はもちろんの事、違う立場の人との共同生活継続も、職員の一人ひとりに合わせた向き合い方や接し方が上手くできているからだろう。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に本人様に確認し、選択肢がある声掛け、希望を聞けるような会話を心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースに合わせ、できるだけ自由に過ごせるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みに応じた服を着ていただいている。又、お化粧のボランティアの方にお化粧をしていただき、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に応じて食事の手伝いや片づけをしていただいている。月に一回とご自分のお誕生日には献立を決めてもらうようにしている。	個々の希望の尊重の中でも「食べる事」は高齢者にとって一番嬉しい事だろう。日頃は業者が搬入した食材を職員がアレンジし、美味しくそれぞれに合った調理をしているが、特別な日は希望が叶えられるようにしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に状態を把握し、その時に合った食事の提供に努めている。水分確保には日頃から好みの飲み物を把握し、水分不足とならないよう努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の能力に応じて援助するよう努めている。必要に応じて歯科往診にて指導、助言を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、定期的にトイレへの声掛け行いトイレで排泄できるよう支援している。	「できる限りおしめをやめよう」「尿意を訴えられない人にも職員の早目の対応で」「特別な工夫で安眠につなげよう」等、一人ひとりの排泄パターンにあわせた支援を職員が共有している為、見事に改善できたという事例も聞いた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をとり、水分補給、食事内容、運動に気を付け予防しているが、必要に応じて主治医、看護師の指示で内服薬を使用している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決めているが、その都度確認行い、臨機応変に対応している。	毎日という人もいるが、週3回は入浴してもらっている。一応入浴表は作ってあるが、朝入りたい人、今はダメと拒否する人もあり、職員は柔軟に対応している。職員は誘うタイミングや声かけをよく工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息の個々のパターンを大切に心地よく休んでいただけるよう努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病気を理解し、薬の目的や副作用等、看護師より説明行ったり、申し送りノートにて共有するよう努めている。服薬介助は声出し確認の徹底に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の役割や得意な事を把握し、できる事の場面で楽しんで取り組めるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人のご希望に応じて散歩や買い物に出かけられるよう支援している。	ホーム開設以来、周辺の散歩は通学パトロールも兼ねており、これも地域交流の大きな産物となっている。また利用者の作品を地域の数か所の公共の場に展示し皆も見に行く等、外出する事でこの地域の一員としての自覚が見られる。	行事での外出や日常的な近回りの散歩の他に、昨年11月の運営推進会議の話し合いの中でも見られたような外食(回転寿司が大変好評)や、本人の希望を叶える為の少人数の外出また、家族の協力による外出等、増やしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の要望や安心感に向けて、ご家族の協力、理解を得て少額のお金を管理していただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望に応じて、いつでも電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎週季節の花が飾られ、落ち着いた色調のホールには手作り作品を展示し季節感、暖かさが感じられるよう努めている。	何回もこのホームを訪問しているのに、数々の利用者の作品がこれ程すばらしいものだったか、改めて見入ってしまった。力強く書かれた習字も感動的だ。職員の空間づくりへの配慮はよく解かるが、それより皆さんの作品の出来栄が圧倒している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人、好きな場所で過ごせるよう空間作りに努めている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を持ち込んで使用していただいたり、その方らしい居心地のよい空間作りに努めている。	思い思いの家具や写真・好みのものその他、家族や職員のメッセージやラブコールが伝わってきて微笑ましい。「どうぞ」と案内してくれた部屋には巨人のカレンダー入りのポスターが貼ってあり、その人から歴代監督・選手の話聞いた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱が軽減するよう環境整備に努めている。		